

〔仮称〕認知症当事者の思いを知るキャンペーン（案）

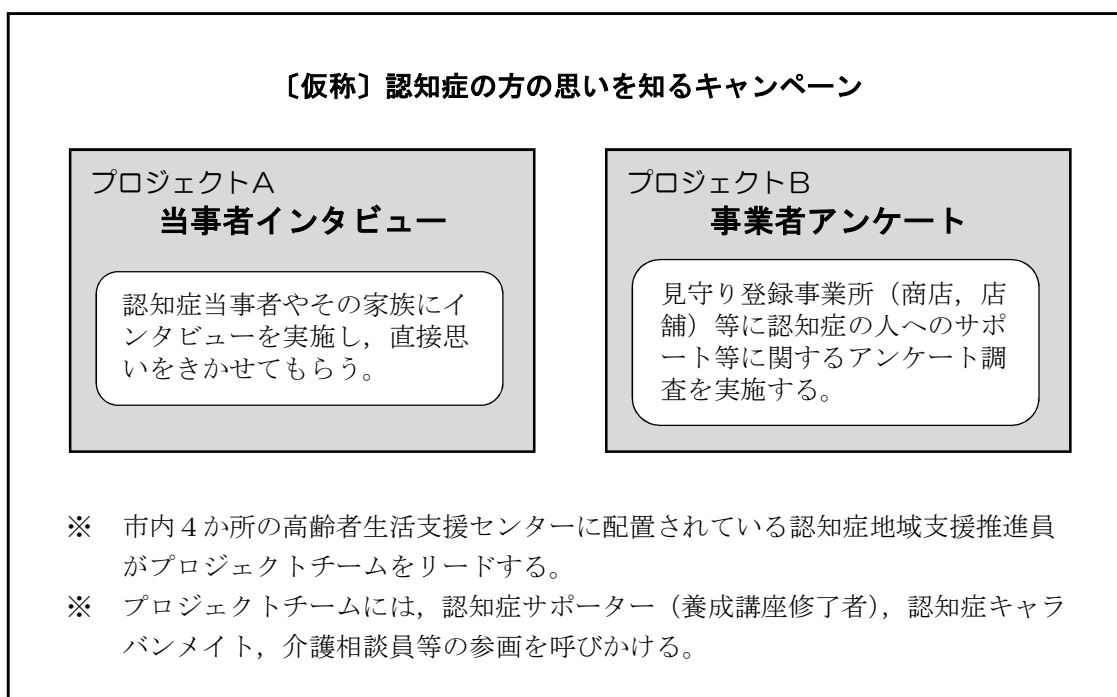
平成29年3月15日 精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当針山
 （平成29年3月15日 地域ケアシステム検討委員会での協議を経て修正）

1 認知症地域支援推進員が考える課題～平成27年度からの活動を通して～

- 認知症サポーター養成講座の開催等で地域住民の認知症理解は少しずつ広がりつつあるが、地域の事業者（例；商業施設等）への啓発は不十分。
- イベントの開催等により「認知症（になること）を予防したい」という意識—広義の介護予防に対する意識—は住民に広がりつつあるが、一方で「認知症になったら大変なことになる」といったネガティブな意識も広がっている。例えば、「認知症になっても周囲のちょっとした支えがあれば大丈夫」といった啓発手法の工夫が必要。
- 認知症地域支援推進員がそのような「ちょっとした支え」を、介護等の「専門的支援」から考えてきていたため、あらためて当事者や当事者を支えている家族から「思い」や「気持ち」を聞かせてもらうことが重要。

2 認知症地域支援推進員の活動の方向性

- 「認知症の方が気兼ねなく集える居場所」、「地域でのちょっとした見まもりやサポート」等を地域で醸成していく必要がある。しかし、その前に「認知症の方やその家族がどのような思いを持って暮らしているか」をあらためて把握した上で具体的な方策を検討する。
- 2つのプロジェクトチームを組織し水平展開する。プロジェクトチームには認知症サポーター養成講座修了者等の地域住民の参加と協力を得ながら進めたい。
- そもそも小地域福祉ブロック会議から挙げられてきた課題でもあるため、地域発信型ネットワーク全体との連携・協働展開したい。



3 具体的な進め方（展開フロー）

